

カンボジア村落部における情報通信応用に関する調査

2014. 02. 16 --- 2014. 03. 16

国際開発専攻

1. カンボジア工科大学パートナー

Dr. Kimtho PO、講師、研究者

Ms. Savda Sam、講師

Mr. Somaly Thun、大学生

2. カンボジア現地活動

(ア) 一週目 02.16~02.18

現地のスタッフと話し合いの後、課題を決定しました：情報通信技術を用いてカンボジア村落部の女性に力を与えます。

(イ) 一週目 02.18~02.20

カンボジアの労働市場における男女平等についてアジア開発銀行の調査レポートを研究しました。そして、このレポートに基づいて、**Mr. Thun** と女性のための政策、立法上の枠組み、労働条件について議論しました。さらに、村落部の現地作業のための戦略、場所、およびチームメンバーを決めました。

(ウ) 一週目 02.20~02.23 & 二週目 02.24~02.26

村落部で人々にインタビューするためのアンケートを作成しました。また、スタッフとチームメンバーからのコメントを元に、アンケートの内容を改善しました。そして、地元のメンバーはアンケートをクメール語に翻訳しました。

(エ) 二週目 02.27

アンケートの印刷と情報通信技術を説明するための資料の準備を行いました。また、村落部の会見相手のために贈り物を買いました。

(オ) 二週目 02.28~03.02

村落部での調査：

私たちのチームは、四人います。そのうち、三人がカンボジア工科大学の大学生です。私たちは二手に分かれて、**Sambok Commune**、クラチエ州の二つの村を訪問して、48人の住民（女性が46人）にインタビューしました。その場所は、オフグリッドであり、インターネットに接続する手段がありません。しかしながら、人々はとてもフレンドリーです、そして、景色はきれいです。**Sambok Commune** は、魅力的なスポットがあります。絶滅危惧イルカとメコン川の急流です。しかし、それらは十分管理が行き届いていません。

(カ) 三週目 03.03~03.07

チームメンバーはアンケートの答えを英語に翻訳しました。私は、答えをまとめて、データベースを作成しました。私は、データを解析して、現地作業レポートを作りました。ここに、いくつかの要点があります：1) 回答者の教育レベルの平均は、小学校か中学校レベルです。2) 回答者の大部分が農業で生計を立てており、他の職業は売り手、仕立屋、教師、美容師などです。売り手は木彫イルカ、サトウキビジュース、食料品を販売しています。3) 回答者の家庭の電気供給方法はほとんど蓄電池とソーラー・パネルです。4) 携帯電話は一般的ですが、回答者の中には、スマートフォンや、コンピュータ、タブレットを持っている家庭もありました。5) 回答者には、生命保険や健康保険を知っている人はいませんでした。6) 妊娠、養育、避妊などの典型的な女性の問題を扱う、組織化された委員会もありません。7) 私たちは情報通信技術についてすべての回答者に説明しました。そして、ほとんどの回答者は興味を示しました。8) 回答者が情報通信技術を通して知りたがっている情報は健康、雇用機会、食物、職業技能、気象情報、技術、ファッション、農耕、家畜でした。9) 回答者が情報通信技術を通して学びたがっている技能は言語、農業、救急、財政管理、手芸、観光サービス、コンピュータまたはスマートフォン、美容院、料理、ビジネス、伝統的なマッサージ、車やモーターの整備でした。

(キ) 四週目 03.08~03.16

カンボジア工科大学のスタッフとディスカッションして、Sambok Commune の女性に権限を与えるために Women-Friendly ICT Center を提案しました。また、私は関連技術として、ソーラー・パネルと蓄電池、衛星インターネット、Voice over Internet Protocol (ボイス オーバー インターネット プロトコル) を研究しました。

さらに、私はアカデミックな知識に関してカンボジア工科大学の大学生に教えるボランティア活動をしました。

3. 成果物

(ア) アンケート

(イ) 現地作業レポート

(ウ) 提案書